【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ② 情報の扱い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ③ 話すこと・聞くこと やや課題が残る結果であった
- ④ 書くこと 概ね良好な結果であった
- ⑤ 読むこと やや課題が残る結果であった

(問題形式)

- ① 選択式 やや課題が残る結果であった
- ② 短答式 概ね良好な結果であった
- ③ 記述式 やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問…資料に書かれている内容として適切なものを選択する問題
- ・もっとも正答率の低かった設問…条件に合わせて学校の米作りの問題点と解決方法を書く問題
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3 (二) 低かった設問 1三 (2) イ
漢字を正しく使う項目が一番高く、図表やグラフを用いて考えを書くが一番低かった

分析

1 傾向

全体的に全国平均よりも低い項目が多いが、その中でも漢字に関わる項目、文章の種類と読み・要約については比較的高い正答率がある。「書く」領域については、無解答や誤答が増える傾向がある。

2 成果

漢字についての設問は、一定の成果があると考えられる。

3 課題

目的意識をもち簡単な文章を書くことから、楽しみながら書くことを積み重ねていくことが必要。

4 授業での重点的な取組み

図表やグラフなどの結果を正しく読み解き、データから推測・考察して文章を作ることができるように、積極的に文例を用いたワークなどを取り入れていくのがよいと考える。また継続して漢字検定を受験している効果は成果として表れているため継続的に行う。

○●算数●○

(領域ごと)

① 数と計算	概ね良好な結果であった
② 図形	概ね良好な結果であった
③ 変化と関係	概ね良好な結果であった
④ データの活用	概ね良好な結果であった

(問題形式)

① 選択式	やや課題が残る結果であった
② 短答式	概ね良好な結果であった
③ 記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問…5脚の椅子を重ねたときの高さを求める問題
低かった設問…三角形の面積の大小についてわかることを選び、選んだ理由を書く問題
- ・もっとも無解答率の高かった設問 4(3) 低かった設問 1(2)
2つのグラフから分かることを書く問題が一番高く、椅子の数と高さの関係について表の数を使って書く問題が一番低かった

分析

1 傾向

「変化と関係」の領域と記述式の問題形式で、正答率が全国平均を上回っていた。
その他は、僅差ではあるが全国平均を下回っていた。
無解答率が全国平均を上回っている。

2 成果

校内の研究教科の国語において、授業中に自分の考えや、その根拠となる理由や考え方を説明し、友だちとのコミュニケーションをとりながら言語化できるように授業改善に取り組んできた。そういった国語で培った指導事項を算数でも教科横断的に活用することを意識した成果が、記述式の問題正答率に少しずつ表れている。

3 課題

高位層と低位層の差が大きく、二極化している。低位層の児童は全国平均より多い。

4 授業での重点的な取り組み

既習事項と本時の学習を結びつけて、数学的に表現し考察したことを自分のことばで書く活動を意識的に取り入れた授業改善に取り組む。授業の終わりには、全学年で「ふりかえり」を書く活動を行う。そこで、自分がわかったことや気づいたことを詳しく書き定着を図る。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・今年度の平均正答率は、昨年度よりやや低い結果となった。全国平均を少し下回っている。
- ・ここ4年の平均正答率を見ると、全国平均を下回る結果が続いている。
- ・無解答率はここ数年で最も高い結果となった。しかし、算数の無解答率は国語に比べて低く、ほとんどの項目が概ね良好な結果となった。諦めずに取り組む姿勢が見られ、少人数での習熟度別指導で丁寧支援してきたことへの成果が見られる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- 昨年度に比べて、学力高位層が減少し、学力低位層が増加した。学力低位層はここ3年間、全国平均より高くなっている。
- 特に、今年はエンパワー層の割合がH19年から最も高い結果となっている。引き続きエンパワー層の学力保障を行っていく。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

① 算数タイムの実施(全学年)

…月に3～5回程度朝学習で算数タイムを実施している。低学年は、基礎的な計算力の定着を図るための計算問題や図形に関する発展問題に取り組んでいる。中・高学年は、既習の知識・技能を使って活用問題にも諦めずに挑戦する力を育むため、「難問チャレンジ」の問題を5問用意し、そのうち1問を自分で選択して、主体的に取り組めるようにしている。

②算数チャレンジの実施(2, 3年生)

…数概念に対する流暢性を高めるため、大小比較、穴あきの数列、四則計算のプリントを1日1分間取り組んでいる。算数の基礎におけるつまづきを把握・分析し、困難を抱えてる児童への個別の手立てや支援を考える。

③算数パワーアップ教室

…休み時間を使って、授業の復習や宿題でわからなかった問題を担任、少人数担当、スクールサポーターが連携して補習を行っている。

2 言語活動の充実

①「言語力(表現力)を育むための授業づくり」を校内の研究テーマに、夏季研修会を行い、教職員全員が年間一人一回、公開授業を行い、授業力の向上に取り組んでいる。

②言語力育成のため、朝の「ことばタイム」や木曜日5時間目の国語の時間を中心に、言葉や文法に関するプリント学習を行っている。

③教職員で「読書感想文の教え方講座」を開き、各学年の実態や発達段階に合った形で読書感想文の書き方をした。2年生以上は学期に1度授業で感想文を書き、夏休みには家庭で取り組んでもらった。月に一度以上は家庭学習の一つに作文を取り入れて、文章を書く練習を進めている。

④学期末には全校児童で漢字検定を実施している。

⑤ふりかえりの書き方について、学力向上部会で共有したり、ふりかえりの好事例を掲示したりしている。

3 授業方法・内容の工夫と改善

①算数アンケートの実施(全学年)

…児童の算数に対する情緒面に着目し、算数が好きか、わかるか、諦めずに取り組んでいるか学期に1回アンケートを実施している。アンケートの結果を活かし、苦手意識をもつ児童に焦点を当てた授業づくりに取り組んでいく。

②3～5年生の算数では習熟度別授業を行い、児童の希望や実態にあわせた授業内容を進めている。